

令和8年度第1回 朝霞市都市計画審議会 次第

日時 令和8年7月28日（火曜日）

午後2時00分から4時00分（予定）

場所 ゆめぱれす（朝霞市民会館） 会議室201

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

- ・議案第1号 朝霞市都市計画マスタープランの策定について
- ・議案第2号 朝霞都市計画生産緑地地区の変更について（朝霞市決定）

4 その他（報告事項）

- ・報告事項第1号 朝霞都市計画生産緑地地区の変更について（経過報告）

5 閉 会

議案第 1 号

朝霞市都市計画マスタープランの策定について

5つの地域の違いの整理 <都市マス本編への整理イメージ>

1. 前回調整会議で頂いたご意見とその対応について

■前回調整会議でいただいたご意見

- “○”の表記ではポジティブなのか、ネガティブなのかがわかりにくく、ミスリードしてしまう可能性もある。
- “○”では方針につながる強弱が読み取れない。方針と特徴の因果がわかるようにしてもらいたい。一方で市民向けに見やすく、わかりやすい表現が必要である。
- A3見開きで特徴と方針の因果がわかるよう表現してはどうか。
- 方針に対する背景を文章で整理できた方がわかりやすい。
- 網羅的ではなく、的を絞って方針につながるよう整理すべきである。

■5つの地域の違いを表現する方法（案）

表形式による整理では、各地域の特徴の有無を一覧的に比較できる利点がある一方、前回の整理では「地域ごとの特徴を網羅すること」と「地域ごとの特徴の重みや傾向を比較すること」の双方を一つの表で表現しようとしたため、注釈が多くなり、○印等だけでは記載の意図や方針との関係性が伝わりにくい構成となっていた。

また、地域の特徴には、地域資源として活かすべきものと、課題として対応すべきものが混在しており、これらを同一の表で整理すると、項目の意味や強弱を統一的に示すことが難しかった。

このため、田辺委員及び高橋委員からのご意見を参考に、A3見開きで各地域の特徴と方針を記載し、その因果関係がわかるように文章で整理する構成とした。

⇒冊子での整理イメージはP.3をご参照ください。

（参考）5つの地域の違いの整理に対する前回都計審でのご意見とその対応

ご意見（要約）
・（大貫委員）“○”の表記ではポジティブなのか、ネガティブなのかがわかりにくい。
・（高橋委員）すべて“○”表記であると、特徴とは言えないため、数値や地名など、より詳細なもので表現すべきである。
・（松村委員）「○」や「－」を表記した根拠を示してもらいたい。数字上は“○”であっても住民の実感異なる可能性もある。それをすり合わせるのがこの場だと思う。
・（ごん委員）各項目に対してデータを示せると納得感が出ると思う。
・（高橋委員）“○”で表現するのであれば、文言での整理の方がわかりやすい
・（鈴木委員）“○”とみたら「問題ない」とミスリードしてしまう可能性がある。
・（森部委員）地域の特徴は地域の良いところをメインに整理されていることが望ましい。
・（浪江委員）“○”では方針につながる強弱が読み取れない。方針と特徴の因果がわかるようにしてもらいたい。一方で、市民向けに見やすく、わかりやすい表現が必要である。
・（房野委員）方針につながるために、どんな特徴があるのか文言でのまとめがあると良い。
・（田辺委員）A3見開きで特徴と方針の因果がわかるよう表現してはどうか。
・（高橋委員）方針に対する背景を文言で整理できた方がわかりやすい。
・（須永委員）網羅的ではなく、的を絞って方針につながるよう整理すべきである。

(参考) 5/29 大貫委員からのご意見

皆さんの意見を伺ったうえで、マトリックスではなく、以下の様な記載ではいかがでしょうか？

内間木地区

- ・かつては稲作をはじめ農業が盛んな地域であって、農家の住宅が点在する地域であった
- ・近年は農業従事者の高齢化、減少に伴い、農地(緑地)が資機材置場などに転用されている
- ・荒川、新河岸川にはさまれ、地盤が低く、内水氾濫、外水氾濫ともにリスクの高い地域である
- ・国道 254 号バイパスの開通に伴い、沿道の緑地を保全しながらの計画的な土地開発が求められている

他の地域もこんな感じの表現はできないでしょうか？

2 地域別まちづくり構想

以下に、5つの地域の特徴とまちづくりの方針の概要を一覧でまとめました。各地域の特徴及びまちづくりの方針の詳細は、次頁以降の各地域のまちづくり構想をご確認ください。

■5つの地域の特徴とまちづくりの方針

<北部地域> 特 徴 【1】・宮戸、朝志ヶ丘地区等の住宅密集地では地震・火災による延焼リスクがあります。 ・河川沿いの浸水想定区域に住宅地が立地し、一部は5 m以上の浸水が想定されるなど、内水・外水氾濫ともにリスクの高い地域となります。 【2】・北朝霞・朝霞台駅が立地し、朝霞台駅の建替や北朝霞駅北口広場の再整備が計画されています。 ・駅前の商業・業務地として合理的な土地利用を実現するために地区計画が定められています。 【3】・駅や市街地の近くに黒目川等の水辺空間や、農地・緑地などの豊かな自然が残されています。 方 針 【1】地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクを地域と共有し、低減するための対策の充実を図ります。安善 【2】駅周辺では計画的な土地利用の誘導に加え、朝霞台駅の建替や北朝霞駅北口広場の人中心の広場への転換等の契機を生かし、誰もが安心して過ごせる空間づくりを推進し、官民連携によるにぎわい形成を図ります。移に善 【3】駅や市街地の近くに黒目川等の水辺空間や、農地・緑地による豊かな自然が残されている特徴を生かし、自然と生活環境のつながりの強化により地域への愛着を高めます。環善	<内間木地域> 特 徴 【1】・荒川、新河岸川に挟まれ、地盤が低く、内水・外水氾濫ともにリスクの高い地域となります。 ・トラックの生活道路への進入が多く、スピードが速いこと等により、交通事故が多く発生しており、交通安全対策の強化が求められています。 【2】・荒川・新河岸川の良好な水辺空間や、農地・緑地が多く分布しており、豊かな自然環境を有しています。 【3】・国道 254 号バイパスの開通に伴い、沿道緑地の保全を考慮した計画的な土地開発が求められています。 ・地域内には朝霞水門や調節池等の来街者を呼び込むポテンシャルのある地域資源が存在します。 方 針 【1】水害による浸水リスクや交通安全に関する対策の充実により、誰もが安全・安心に過ごせる環境を確保します。安移善 【2】荒川や新河岸川といった河川や農地等のみどりが残る豊かな自然環境を適切に維持・管理します。環善 【3】国道 254 号バイパスの整備による沿道土地利用のポテンシャルや朝霞水門、調節池等の地域資源を生かした地域の活性化を図ります。に善
<西部地域> 特 徴 【1】・三原地区の住宅密集地では地震・火災による延焼リスクがあります。 ・黒目川左岸の浸水想定区域に住宅地や福祉施設、医療施設等が点在しています。 【2】・黒目川の水辺空間（桜並木等）や農地・緑地のみどりが残された良好な居住環境が形成されています。 【3】・駅周辺では地区計画による商業・業務空間の充実に向けた取組により店舗や医療施設等の都市機能が一定程度集積しています。 ・企業が多く立地しており、民間企業と連携したまちづくりを図るポテンシャルを有しています。 方 針 【1】地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクの低減に向けた対策の充実を図ります。安善 【2】黒目川の水辺空間（桜並木等）や農地・緑地のみどりが残る良好な居住環境の維持・活用を図ります。環善 【3】駅周辺への都市機能の集積や企業・工場が立地している特性を生かし、民間企業と地域との連携強化と、利便性の向上やにぎわいの創出を図ります。また、人と人、人とお店や企業、自然と地域等のつながりの強化により、新たな発見やにぎわいが生まれる地域づくりを行います。移に善	<東部地域> 特 徴 【1】・黒目川右岸や城山公園南側の浸水想定区域に住宅地や医療施設等が点在しています。 ・農地や斜面林等のみどりのある豊かな自然環境が残されています。 【2】・朝霞駅が立地し、駅周辺の空地等を活用したにぎわい創出のポテンシャルがあります。 ・国道 254 号バイパスの整備に伴い、沿道土地利用のポテンシャルが高まっています。 【3】・根岸台地区は公共交通の利便性の低いエリアが存在します。 方 針 【1】水害対策等、安全なまちへの取組を実施しながら、農地や斜面林等のみどりが残る静かな居住環境を維持し、その資源の有効活用により地域力の強化を図ります。安環善 【2】朝霞駅周辺や国道 254 号バイパス沿道ではそのポテンシャルを生かし、メリハリをつけてにぎわい形成を図ります。に善 【3】移動の目的に応じた多様な移動手段の確保により、誰もが移動しやすい環境を創出し、居住と産業が共存した地域を目指します。移に善
<南部地域> 特 徴 【1】・幸町、本町、栄町の住宅密集地では地震・火災による延焼リスクがあります。 ・黒目川右岸沿いの浸水想定区域に住宅地や福祉施設等が点在しています。 ・小・中学校周辺に限らず交通安全対策の充実が求められています。 【2】・黒目川の水辺空間や基地跡地等のみどりがある豊かな自然環境が残されています。 ・川越街道の面影を残した史跡があり、歴史的文化資源を有しています。 【3】・朝霞駅や基地跡地周辺では、公共空間を活用したイベントが継続的に開催されています。 ・工業系用途地域において住宅用地が多くみられ、住工混在となっています。 方 針 【1】地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクの低減に向けた対策の充実と、交通安全対策の強化により、誰もが安全・安心に生活できる住環境を整えます。安移善 【2】黒目川の水辺空間や基地跡地等のみどりが残る豊かな自然環境や、川越街道の歴史的文化資源等の適切な維持管理・活用を図ります。に善 【3】朝霞駅や基地跡地周辺の充実した都市機能や公共空間を生かし、官民連携による一体的なにぎわいや活力の創出を図るとともに、地域内に立地する企業等との連携・協働による地域経済活性化に向けた取組を推進します。環に善	

評価指標の設定について

○前回調整会議でいただいた指標設定全体に関するご意見

- ・「将来目標（成果）」と「進捗管理（取組）」が、明確な対（ペア）の関係にあることがわかるように指標を設定してはどうか。
- ・進捗管理指標は、都市計画部局で責任をもって進捗管理を行う指標である必要があるが、他部局が管理する指標であっても、重要なものや市民ニーズの高い取組に関わるものは、補足的な進捗管理指標として加えてはどうか。（メイン指標とサブ指標の切り分け）
- ・取組の柱ごとに進捗管理指標を設定し、定期的にモニタリングすべきではないか。
- ・今後の指標管理のベースとなる「5年ごと 2000 人規模の市民アンケート」だけでは、エリア特有の困りごとや子育て世代・高齢者など特定の人が関係するテーマについて該当者が少なく、本当に困っている人の声が埋もれてしまうのではないか。

※個別の指標に関するご意見とその対応については、参考資料1及び2にまとめています。

○評価指標の見直しの方針

前回都計審や調整会議、その後の委員との意見交換の中でいただいたご意見を踏まえ、評価指標を下記の方針で見直しました。

① つながりが分かりやすい指標体系とする

都市マスで目指すまちの姿と、その実現に向けた取組の関係が分かるように、3つの指標（市民満足度指標、将来目標指標、進捗管理指標）のつながりを意識します。進捗管理指標については、取組の柱とリンクさせるため、メイン指標とサブ指標を設定します。

② 成果と取組状況を測る指標を区別して整理する

「社会や暮らしにどのような変化が生じたか」といった取組の成果を測る指標と、「何を・どれだけ実施したか」といった取組の実施状況を測る指標を区別して整理します。

原則として、将来目標指標は取組の成果を測る指標、進捗管理指標は取組の実施状況を測る指標とします。

③ 都市計画部門として責任をもって管理できる指標を中心に設定する

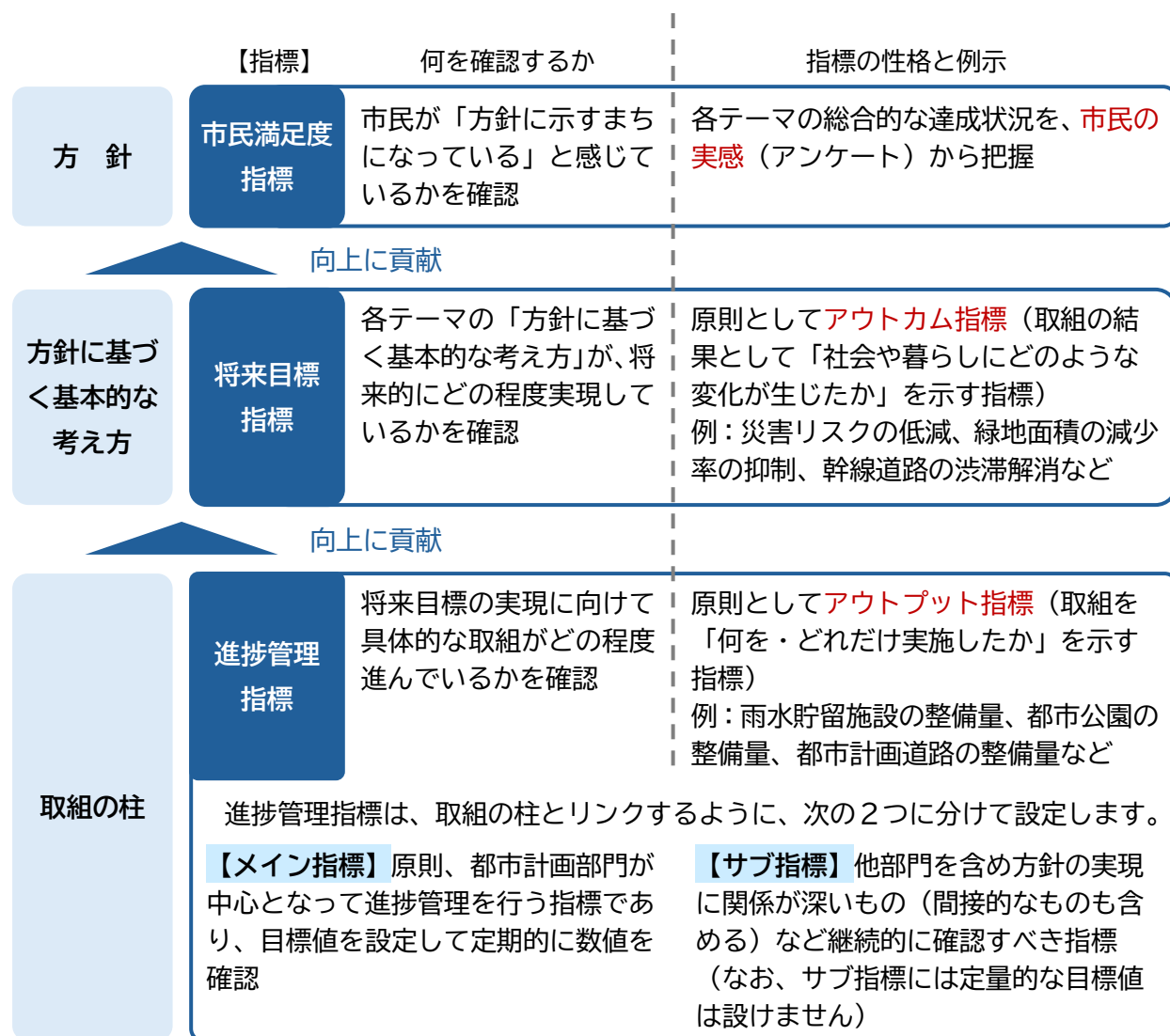
原則、都市計画部門が責任をもって確認できることを重視し、継続的に数値を把握できる指標を設定します。ただし担当部門が直接管理することが難しい取組でも、方針の実現に寄与し、継続的に確認すべきものは必要に応じて取り入れます。

④ アンケートやデータ収集による評価に加え、継続的に市民の皆さまとの対話の機会を設ける

特定のテーマに関連する方の意見を把握できるよう、対象者を限定したアンケート調査等を実施するとともに、データに現れる結果や市民全体の傾向だけでなく地域固有の課題や特定の市民が関係する課題についても把握し対応できるように、継続的に市民の皆さまとの対話の機会を設けます。

○将来目標指標と進捗管理指標の設定の考え方

評価指標は、テーマ別まちづくり方針の構成に応じて次の3つの指標で整理します。



○評価の方法

都市マスの策定後は、以下のように都市マスの評価を運用していきます。

指標	目標値設定の考え方	評価の方法・データ取得頻度
市民満足度指標	・ 目標年次を20年後 として、市民の実感が現状よりも向上・改善していることを目標とする	・ 市民アンケートを実施 ・ 評価は中間時点の10年後とするが少なくとも5年ごとに確認する
将来目標指標	・ 目標年次を20年後 として、定めた指標が現状よりも向上・改善していることを目標とする	・ 指標の内容により、データの取得またはアンケートを実施 ・ 5年ごとに達成状況を確認する
進捗管理指標	・ 5年後に達成することを目指し て、定めた指標の具体的な目標値を設定する（メイン指標のみ）	・ メイン指標に定めた項目について毎年データを取得し、進捗状況を確認する
その他（個別の意見収集）	・ 都市マス策定時に行った「地域別サロン」の開催やデジタルツールの活用等により、継続的に個別の意見の収集機会を設ける ・ 特定のテーマに関連する方の意見を把握できるよう、対象者を限定したアンケート調査等を実施する	

■ テーマ「安全・安心」の評価指標検討

〈方針〉

日常生活のなかで災害が発生しても、被害を最小限に留め、素早く確実に復旧できる、防災・防犯ともに備えができています。安全・安心に暮らせるまちを目指します。

市民満足度指標

【安全・安心】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づく基本的な考え方〉

① 災害に強い都市基盤を整える

将来目標指標

防災上のリスクの高い地域(※)の減少

【現況値】 735.8 ha

※浸水深1m以上、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域、住宅密集地に該当するエリア

② 災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える

将来目標指標

災害時に閉塞しない主要生活道路以上(※)の道路の割合の増加

【現況値】 50.3 %

※主要生活道路以上とは、道路基本計画における「幹線道路、補助幹線道路、主要生活道路」が該当

③ 日頃の暮らしから、災害・犯罪・事故に備える

将来目標指標

「生活道路の安全確保」の取組に対する満足度の向上

【現況値】 31.8 %

※令和7年度市政モニターアンケートより

〈取組の柱〉

① 災害リスクの低減・回避

② インフラの強化

③ 災害に強い生活環境への改善

進捗管理指標

【メイン】

雨水貯留施設の整備量①

【現況値】 38,096 m³

【目標値】 39,186 m³

【サブ】

- ・開発許可の件数①
- ・避難所等に接続する下水道管路等の耐震化率②
- ・建築確認の件数③

④ 災害時の核となる防災拠点の形成

⑤ 避難・救助しやすい道づくり

⑥ 物資や人を運びやすい道づくり

進捗管理指標

【メイン】

緊急輸送道路の整備延長

⑤・⑥

【現況値】 17.59 km

【目標値】 18 km

【サブ】

- ・地域防災拠点の箇所数④
- ・無電柱化の整備延長⑤・⑥

⑦ 日常から災害に備えるまちづくり

⑧ 犯罪や事故の芽を摘む環境づくり

⑨ 共助の体制強化

進捗管理指標

【メイン】

道路照明灯の設置総数⑧

【現況値】 4,034 本

【目標値】 4,074 本

【サブ】

- ・災害時を考慮したベンチ（かまどベンチなど）の導入件数⑦
- ・防犯カメラ及び防犯灯設置補助金交付件数⑧
- ・自治会・町内会における自主防災組織の結成率⑨

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- ・朝霞市面積（1,834ha）の約4割が防災上リスクの高い地域に含まれ、災害リスクの低減・回避に向けた取組により防災上のリスクの高い地域が減少することは、被害を最小限に留めることにつながるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・内間木地域や河川沿いの低地部等の広い範囲で浸水が想定されており、雨水貯留施設の整備が河川氾濫の抑制や浸水被害低減の効果が期待できるため

○将来目標指標

- ・都市計画道路や主要生活道路の整備により、道路閉塞が発生しないとされる幅員8m以上の道路の割合が増えることは、災害時の円滑な救援・救護や復旧につながるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・緊急輸送道路を優先的に整備することで、災害発生時に被災地への救援物資や支援部隊の迅速な搬送が可能となり、復旧活動のスピードアップにつながる。整備延長を積み上げることで、将来目標指標の道路の割合を押し上げることにつながるため

○将来目標指標

- ・生活道路の安全確保を進めることで、災害時の避難のしやすさや、夜間を含めた犯罪や事故の発生の抑制につながることを期待できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・道路や公共空間における適切な照度の確保は犯罪や交通事故の発生抑制の効果が期待できるため

■ テーマ「自然・環境」の評価指標検討

〈方針〉

みどりのある朝霞らしい風景を守り、親しみ、
未来のこどもたちに胸を張って残せる持続可能な
自然豊かで環境にやさしいまちを目指します。

市民満足度指標

【自然・環境】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

①持続可能な未来につながる
気候変動に対応する

将来目標指標

温室効果ガス排出量の削減
(2013年度比)

【現況値】23.2 %

※令和4年度における温室効果ガス削減率
(2013年度比)

②豊かな自然を育みつなぐ

将来目標指標

市内緑地面積の
減少率(※)の抑制

【現況値】0.27 %/年

※過去10年間の緑地面積の年間平均減少率
(H25→R5)

③朝霞らしい風景を
守り育てる

将来目標指標

景観の取組に対する
満足度の向上

【現況値】58.8 %

※令和6年度市民意識調査より

〈取組の柱〉

- ① 環境配慮の視点からも
選択できる移動手段の確保
- ② 環境にやさしい公共空間
の整備
- ③ 環境にやさしい住宅の
整備促進

進捗管理指標

【メイン】

公共交通
(路線バス及び市内循環バス)
の年間利用者数①

【現況値】828.9 万人

【目標値】939.7 万人

【サブ】

- ・公共的空間の緑被地面積②
- ・創エネ・省エネ設備設置費
補助金の件数③

- ④ 暮らしを支え豊かにする
みどりの保全・育成
- ⑤ みどりを支える仕組み
の強化
- ⑥ みどりのある暮らし
の実践

進捗管理指標

【メイン】

特別緑地保全地区の
指定面積④

【現況値】2.1 ha

【目標値】2.7 ha

【サブ】

- ・都市公園の面積④
- ・緑化活動を行うボランティ
ア団体の団体数⑤
- ・みどりに触れ、楽しめる活
動実績数⑥

- ⑦ 協働による景観づくり
- ⑧ みずみずしい風景を生か
した自然環境への誘導

進捗管理指標

【メイン】

景観団体の活動実施数⑦

【現況値】33 件

【目標値】38 件

【サブ】

- ・景観づくり重点地区の
指定面積⑧

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- ・環境に配慮した移動手段の確保や公共空間、住宅の整備により温室効果ガス排出量を削減することは、気候変動リスクを低減させることになり、持続可能な未来の形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・ゼロカーボンアクションの中で、まちづくりの範囲内で直接取り組める内容であるとともに、日本の温室効果ガス排出において、「移動」に伴う排出割合が大きいことから、公共交通の利用者増加は、自動車利用の削減に直結し、CO₂削減効果が期待できるため

○将来目標指標

- ・みどりの保全・育成により緑地面積を維持・増加することは、「みどりのある朝霞らしい風景」を守ることにつながるため
- ・近年、市内の緑地面積は減少傾向にあり、その減少トレンドから回復できているかどうかを評価することで、環境保全の成果を定量的に把握できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・既存の緑地等を指定することは、緑地等の保全・活用につながり、市内の緑地面積の減少率の抑制に効果があると期待されるため

○将来目標指標

- ・景観づくりの推進により市民の景観に対する満足度が向上することは、朝霞らしい風景が守られ、育てられていると捉えられるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・景観団体の活動の活発化は、朝霞らしい風景の維持・形成が期待でき、市民の景観に対する満足度の向上につながるため

■ テーマ「快適な移動」の評価指標検討

〈方針〉

多様な移動手段でつながる、安全で快適な移動環境のある、人にやさしい交通アクセスのよいまちを目指します。

市民満足度指標

【快適な移動】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき基本的な考え方〉

①まちの骨格となる幹線道路の交通流を円滑にする

将来目標指標

市内幹線道路の渋滞の解消

【現況値】混雑度 1.47
(市内最大値)

※令和3年度道路交通センサスより

②身近な生活道路の安全を守る

将来目標指標

市内交通事故発生件数の減少

【現況値】283 件

※令和6年時点(埼玉県警)

③自由な移動を支える

将来目標指標

公共交通利用圏域における人口のカバー率の増加

【現況値】96.7 %

※令和2年国勢調査より

〈取組の柱〉

① 幹線道路の整備

② 既存道路の改良

③ 自転車走りやすい道づくり

④ 安全に生活できる身近な道づくり

⑤ こどもの未来を守る通学路づくり

⑥ 荷捌きと駐車場の適正化

⑦ どこに住んでいても自由に移動できる多彩な移動手段の充実

⑧ 人中心の歩きたくなる道づくり

進捗管理指標

【メイン】

都市計画道路の整備率①

【現況値】54.1 %

【目標値】60.9 %

【サブ】

- ・交差点の改良件数②
- ・自転車通行空間の整備延長③

進捗管理指標

【メイン】

主要生活道路以上の道路における歩道整備率④

【現況値】33.2 %

【目標値】33.9 %

【サブ】

- ・歩道橋の改修件数⑤
- ・放置自転車の件数⑥

進捗管理指標

【メイン】

市内循環バス及びわくわくワゴン等のルート数⑦

【現況値】6ルート

【目標値】6ルート

【サブ】

- ・シェアサイクルの年間貸出回数⑦
- ・まちなかベンチの設置数⑧

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- ・幹線道路の整備や既存道路の改良により市内幹線道路の渋滞が緩和されることは、安全で快適な移動環境のある、交通アクセスのよいまちの形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・都市計画道路の整備は、幹線道路ネットワークの形成や既存道路の改良につながり、市内幹線道路の渋滞緩和の効果が期待できるため

○将来目標指標

- ・交通安全対策の推進により市内交通事故発生件数が減少することは、安全で快適な移動環境を創出し、人にやさしいまちの形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・歩道整備による歩行者の移動環境の確保は、人と車や自転車のすみわけにもつながり、交通事故発生抑制効果が期待できるため。なお、主要生活道路以上の道路のうち、計画幅員が8m以上の道路を対象とする

○将来目標指標

- ・公共交通の利用環境の充実により目的に応じた多様な移動手段が確保できることは、多様な移動手段でつながる交通アクセスのよいまちの形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・市内循環バスやわくわくワゴン等のルート数の維持は、公共交通利用圏域の人口カバー率の増加につながるため

■ テーマ「にぎわい・活力」の評価指標検討

〈方針〉

四季折々のイベントが充実し、笑顔が絶えないワクワクするまち、
鉄道駅や道路ネットワーク・地域資源を生かした
にぎわいと活力のあるまちを目指します。

市民満足度指標

【にぎわい・活力】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

①にぎわいと活力のある
駅前拠点をつくる

将来目標指標

朝霞駅及び北朝霞・朝霞台駅
周辺の歩行者通行量の増加

【現況値】今年度調査

②安心して産業活動ができる
環境を整える

将来目標指標

産業用地（商業用地及び工業用地）
の土地利用面積の増加

【現況値】189.1 ha

※令和3年度都市計画基礎調査より

③地域資源を生かして活力を
創出する

将来目標指標

市民参加型のまちの魅力づくり
に関するイベント・ワークショップ
等の年間実施件数の増加

【現況値】58 件

〈取組の柱〉

① 朝霞駅周辺の活気ある
まちづくり

② 北朝霞・朝霞台駅周辺の
活気あるまちづくり

③ 誰もが楽しく歩ける空間
の整備

進捗管理指標

【メイン】
都市機能誘導区域内の公共空間
で実施した官民連携による
イベント開催箇所数①・②

【現況値】9 箇所

【目標値】11 箇所

【サブ】

・朝霞駅、北朝霞・朝霞台駅
の年間乗降客数①・②
・誰もが楽しく歩ける空間整備③
(歩行者利便性確保道路及び滞在快適性等向上区域)

④ 工業系地域における居住
環境にも配慮した
生産環境の確保

⑤ 企業と市民で共につくる
地域経済の活性化

⑥ 立地特性を生かした戦略
的な産業の誘致・育成

進捗管理指標

【メイン】
産業系の土地利用を創出する
地区計画や土地区画整理事業
等の決定及び認可件数④・⑥

【現況値】5 件

【目標値】6 件

【サブ】

・企業との協定数⑤
・企業の誘致件数⑥

⑦ 自然環境や歴史・文化
資源を生かしたにぎわい
づくり

⑧ 潜在するポテンシャルを
生かした地域経済の
活性化

進捗管理指標

【メイン】
市民参加型のまちの
魅力づくりに関する
イベントの件数⑧

【現況値】48 件

【目標値】50 件

【サブ】

・自然環境・歴史・文化資源
を生かしたイベントの件数
⑦

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

・各駅周辺における活気あるまちづくりに
向けた取組を進めることにより、各
駅周辺の歩行者通行量を増加させるこ
とは、にぎわいと活力のある駅前拠点
をつくることにつながるため

○進捗管理指標【メイン】

・都市機能誘導区域内での公共空間の活
用は、駅周辺の滞在者数の増加につな
がり、にぎわいと活力を生み、新たな
事業所が立地するポテンシャルが高ま
るため

○将来目標指標

・産業用地の土地利用面積を増加させ、
地域経済の活性化と持続的な発展を
図ることにより、企業が安心して事業展
開できる環境を整えることにつながる
ため

○進捗管理指標【メイン】

・地区計画や土地区画整理事業による
産業系用地の創出は、都市基盤の整備
や産業立地を促し産業用地面積の増加
につながるため

○将来目標指標

・地域住民が主体的に参加し意見交換す
る場が多いほど、地域資源を活用した
魅力的なまちづくりが進むことにつな
がるため

○進捗管理指標【メイン】

・市民を巻き込んだまちの魅力づくりの
支援は、イベント等の実施件数の増加
につながるため

■ テーマ「私らしい暮らし」の評価指標検討

〈方針〉

自然と利便性が共存するコンパクトな住宅都市であることを生かし、
私らしくいきいきと暮らせる、活躍できるまちを目指します。

市民満足度指標

【私らしい暮らし】の方針の示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

①市街地と自然をつなぐ、選
択肢のある住環境を整える

将来目標指標

ライフスタイルに応じた
住環境に対する満足度の増加

【現況値】 今年度調査

②暮らしを支える生活
サービスの質を高める

将来目標指標

生活サービス施設への
アクセシビリティ（利用しや
すさ）に対する満足度の向上

【現況値】 今年度調査

※生活サービス施設とは、商業、医療、福祉、子育て施設等該当

③私らしくいられる場や活躍
できる場をつくる

将来目標指標

市民幸福度の向上

【現況値】 6.4点/10点満点

※デジタル庁が示すウェルビーイング指標の
1つ（令和7年度の値）

〈取組の柱〉

① 歩きたくなる地域づくり

② 利便性と自然が調和した
ゆとりのある地域づくり

③ みどりに恵まれた
地域づくり

進捗管理指標

【メイン】
開発事業に伴う緑地確保の
指導に対する整備率②・③

【現況値】 100 %

【目標値】 100 %

【サブ】

- ・歩きたくなる空間整備①
（歩行者利便増進道路及び滞在快適
性等向上区域）（再掲）
- ・生産緑地の指定面積②

④ 市民全体の暮らしを
支える広域サービスの
確保・充実

⑤ 身近な生活サービスの
確保・充実

⑥ 既存の土地や建物を活用
した生活サービスの確保

進捗管理指標

【メイン】
生活サービス施設からの
徒歩圏（500m圏）
人口カバー率④・⑤

【現況値】 98.1 %

【目標値】 98.6 %

【サブ】

- ・空き店舗等リフォーム資金
の補助件数⑥

⑦ オープンスペースの創出
と利活用

⑧ 私らしく働く場、
活躍できる場の確保

⑨ 多様な主体の共創による
新たな価値の創出

進捗管理指標

【メイン】
商工関連イベントの実施件数
⑦・⑧

【現況値】 4件

【目標値】 4件

【サブ】

- ・インクルーシブに配慮した
公園の数⑦
- ・社会環境をリードする新た
な産業の育成支援の件数⑨

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- ・自然と調和したゆとりある地域づくり
やみどりに恵まれた地域づくりにより
自然と調和した適正な土地利用に対す
る満足度が向上することは、自然と利
便性が共存するコンパクトな住宅都市
の形成に貢献するため

○進捗管理指標【メイン】

- ・開発事業に伴う緑地確保の指導に対す
る整備率を維持することは、自然と調
和した住環境の形成につながるため

○将来目標指標

- ・生活サービス施設の確保・充実により
生活サービスへのアクセシビリティに
対する満足度が向上することは、利便
性の高い住宅都市の形成に貢献できる
ため

○進捗管理指標【メイン】

- ・都市機能の充実による生活サービス施
設からの徒歩圏人口カバー率の増加は、
生活に対する満足度に寄与するため
※都市計画部門だけでは取組を推進でき
ないため、他部局と連携して推進する

○将来目標指標

- ・主観的指標（アンケート等）と客観的指
標（オープンデータ等）により算出され
る市民幸福度の割合が向上することは、
私らしくいきいきと暮らせる、活躍でき
るまちの形成に貢献するため

○進捗管理指標【メイン】

- ・官民連携による取組を継続していくこ
とは、まちの魅力向上だけでなく、市
民の愛着向上に寄与することが期待され
るため
- ・商工関連イベントは、市民が主体とな
って実現しており、現在実施してい
る4件のイベントも関係者の努力で継
続されていることから、担い手の確保
や機運醸成への市の支援が重要である

評価指標の設定理由

【安全・安心】

基本的な考え方	指標分類	指標		現況値	目標値（R12）	設定理由
❶災害に強い都市基盤を整える	将来目標指標	・防災上のリスクの高い地域（※）の減少 ※浸水深1 m以上、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域、住宅密集地に該当するエリア		735.8 ha （R 7 年度末）		・朝霞市面積（1,834ha）の約4 割が防災上リスクの高い地域に含まれ、災害リスクの低減・回避に向けた取組により防災上のリスクの高い地域が減少することは、被害を最小限にとどめることにつながるため
	進捗管理指標【メイン】	・雨水貯留施設の整備量	取組の柱①	38,096 m³ （R 8 年 4 月現在）	39,186 m³	・内間木地域や河川沿いの低地部等の広い範囲で浸水が想定されており、雨水貯留施設の整備が河川氾濫の抑制や浸水被害低減の効果が期待できるため
	進捗管理指標【サブ】	・開発許可の件数	取組の柱①	14 件 （R 7 年度）		・開発事業と併せた防災設備や避難場所等の確保を促すことは、地域全体の防災力強化につながるため
		・避難所等に接続する下水道管路等の耐震化率	取組の柱②	59.9% （R 5 年度末）		・上下水道施設の耐震化率が高まることは、災害時における断水や下水管の詰まりを防ぎ、避難所等の重要施設への給排水確保と速やかな復旧に貢献できるため ・なお、上水道施設の耐震化率はおおむね 100%となっているため、下水道施設の耐震化率を指標として設定した
		・建築確認の件数	取組の柱③	262 件 （R 7 年度）		・現行の防火や耐震基準に適合した建築物の整備・更新は、地域の不燃領域の増加につながり、住宅密集地等の解消にもつながるため
❷災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える	将来目標指標	・災害時に閉塞しない主要生活道路以上（※）の道路の割合の増加 ※阪神淡路大震災等の調査から道路閉塞の発生確率がほとんどなくなるとされる幅員8 m以上の道路を対象とする。 ※主要生活道路以上とは、朝霞市道路整備基本計画において位置づけられている「幹線道路」、「補助幹線道路」、「主要生活道路」に該当する路線		50.3% （R 7 年度末）		・都市計画道路や主要生活道路の整備により、道路閉塞が発生しないとされる幅員 8 m以上の道路の割合が増えることは、災害時の円滑な救援・救護や復旧につながるため
	進捗管理指標【メイン】	・緊急輸送道路の整備延長	取組の柱⑤ 取組の柱⑥	17.59km （R 7 年度末）	18 km	・緊急輸送道路を優先的に整備することで、災害時に被災地への救援物資や支援部隊の迅速な搬送が可能となり、復旧活動のスピードアップにつながる。整備延長を積み上げることで、将来目標指標の道路の割合を押し上げることににつながるため
	進捗管理指標【サブ】	・地域防災拠点の箇所数	取組の柱④	10 箇所 （R 7 年度末）		・災害時の核となる地域防災拠点は、避難者の受入や復旧の拠点として、円滑な復旧対応に貢献できるため
		・無電柱化の整備延長	取組の柱⑤ 取組の柱⑥	435.7m （R 7 年度末）		・電柱の倒壊は道路閉塞の要因の 1 つであり、無電柱化によりそのリスクを低減することができるため
	進捗管理指標【サブ】	・災害時を考慮したベンチ（かまどベンチなど）の導入件数	取組の柱⑦	18 基 （R 7 年度末） ※3 つの公園に設置		・災害時を考慮したベンチ（かまどベンチなど）の導入により、災害時においても安心して避難生活を過ごせる環境を確保できるため
❸日頃の暮らしから、災害・犯罪・事故に備える	将来目標指標	・「生活道路の安全確保」の取組に対する満足度の向上		31.8% （R 7 市政モニターアンケート）		・生活道路の安全確保を進めることで、災害時の避難のしやすさや、夜間を含めた犯罪や事故の発生の抑制につながることが期待できるため
	進捗管理指標【メイン】	・道路照明灯の設置総数	取組の柱⑧	4,034 本 （R 7 年度末）	4,074 本	・道路や公共空間における適切な照度の確保は犯罪や交通事故の発生抑制の効果が期待できるため
	進捗管理指標【サブ】	・防犯カメラ及び防犯灯設置補助金交付件数	取組の柱⑧	防犯カメラ 3 件 防犯灯 1 件 （R 7 年度）		・防犯カメラや防犯灯の設置も犯罪や交通事故の発生抑制の効果が期待できるため
		・自治会・町内会における自主防災組織の結成率	取組の柱⑨	76.5% （R 7 年度末）		・自主防災組織の結成率の増加は、災害時の自治会や町内会等、地域での共助の体制強化につながることを期待できるため。 ・なお、朝霞市における自治会・町内会の加入率は 34.5%である

【自然・環境】

基本的な考え方	指標分類	指標		現況値	目標値（R12）	設定理由
❶持続可能な未来につながる気候変動に対応する	将来目標指標	・温室効果ガス排出量の削減（2013 年度比）		23.2% ※ R 4 年度における温室効果ガス削減率(2013 年度比)		・環境に配慮した移動手段の確保や公共空間、住宅の整備により温室効果ガス排出量を削減することは、気候変動リスクを低減させることになり、持続可能な未来の形成に貢献できるため ・既存の気候変動対策計画と整合性を持たせるため ※本市では 2050 年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ（平成 25（2013）年度比 100%削減）を目指し取組を進めている
	進捗管理指標 【メイン】	・公共交通（路線バス及び市内循環バス）の年間利用者数	取組の柱①	828.9 万人 （R 7 年度）	939.7 万人 （第 2 次地域公共交通計画）	・ゼロカーボンアクションの中で、まちづくりの範囲内で直接取り組める内容であるとともに、日本の温室効果ガス排出においては、「移動」に伴う排出割合が大きいことから、公共交通の利用者増加は、自動車利用の削減に直結し、CO ₂ 削減効果が期待できるため
	進捗管理指標 【サブ】	・公共的空間の緑地面積	取組の柱②	129.8 ha （R 5 年）		・公共的空間における緑地面積の維持・増加は、温室効果ガスの吸収源を維持・増加することにつながり、温室効果ガスの排出量の削減に寄与するため
		・創エネ・省エネ設備設置費補助金の件数	取組の柱③	70 件 （R 7 年度）		・創エネ・省エネ設備設置件数の増加は、温室効果ガスの排出量の削減に寄与するため
❷豊かな自然を育みつなぐ	将来目標指標	・市内緑地面積の減少率（※）の抑制 ※過去 10 年間の緑地面積の年間平均減少率		0.27%／年 （H25→R 5）		・みどりの保全・育成により緑地面積を維持・増加することは、「みどりのある朝霞らしい風景」を守ることにつながるため ・近年、市内の緑地面積は減少傾向にあり、その減少トレンドから回復できているかどうかを評価することで、環境保全の成果を定量的に把握できるため
	進捗管理指標 【メイン】	・特別緑地保全地区の指定面積	取組の柱④	2.1 ha （R 7 年度末）	2.7ha （みどりの基本計画）	・既存の緑地等を指定することは、緑地等の保全・活用につながり、市内の緑地面積の減少率の抑制に効果があると期待されるため
	進捗管理指標 【サブ】	・都市公園の整備	取組の柱④	31.22 ha （R 7 年度末）		・公園整備によるみどりの整備・保全は、市内全体の緑地面積の減少率の抑制につながるため
		・緑化活動を行うボランティア団体の団体数	取組の柱⑤	6 団体 （R 7 年度末）		・緑化活動を行うボランティア団体の増加により、地域のみどりの維持・増加に寄与し、緑地面積の減少率の抑制につながるため
		・みどりに触れ、楽しめる活動実績数	取組の柱⑥	101 回 （R 7 年度）		・みどりに触れ、楽しめる活動実績の増加は、みどりの価値やみどりと暮らす豊かさを知ってもらうことにつながり、みどりの維持や活用にとって効果的と期待されるため（例：あさかの森プレーパーク、にんじんの収穫体験など）
❸朝霞らしい風景を守り育てる	将来目標指標	・景観の取組に対する満足度の向上		58.8% （R 6 市民意識調査）		・景観づくりの推進により市民の景観に対する満足度が向上することは、朝霞らしい風景が守られ、育てられていると捉えられるため
	進捗管理指標 【メイン】	・景観団体の活動実施数	取組の柱⑦	33 件 （R 7 年度）	38 件	・景観団体の活動の活発化は、朝霞らしい風景の維持・形成が期待でき、市民の景観に対する満足度の向上につながるため
	進捗管理指標 【サブ】	・景観づくり重点地区の指定面積	取組の柱⑧	25.28 ha （R 7 年度末）		・地域資源等を景観づくり重点地区に指定することは、地域資源を含めた景観の維持・向上が期待でき、景観の取組に対する満足度の向上につながるため

【快適な移動】

基本的な考え方	指標分類	指標		現況値	目標値（R12）	設定理由
❶ まちの骨格となる幹線道路の交通流を円滑にする	将来目標指標	・ 市内幹線道路の渋滞の解消		最大値：1.47 （R 3 道路センサス）		・ 幹線道路の整備や既存道路の改良により市内幹線道路の渋滞が緩和されることは、安全で快適な移動環境のある、交通アクセスのよいまちの形成に貢献できるため
	進捗管理指標 【メイン】	・ 都市計画道路の整備率	取組の柱①	54.1% （R 7 年度末）	60.9%	・ 都市計画道路の整備は、幹線道路ネットワークの形成や既存道路の改良につながり、市内幹線道路の渋滞緩和の効果が期待できるため
	進捗管理指標 【サブ】	・ 交差点の改良件数	取組の柱②	4 件 （R 7 年度）		・ 交通のボトルネックとなっている交差点の改良は、市内幹線道路の渋滞緩和の効果が期待できるため
		・ 自転車通行空間の整備延長	取組の柱③	3.8 km （R 7 年度末）		・ 自転車通行空間の整備延長の増加は、自転車で安全に通行できる環境の確保につながるため ・ なお、現在整備している自転車通行空間については、令和 8 年 4 月に改正された道路交通法に対応していないが、今後の国の検討状況を踏まえながら整備に努める ※幹線道路（市道）の総延長=6.8 km
❷ 身近な生活道路の安全を守る	将来目標指標	・ 市内交通事故発生件数の減少		283 件 （R 6 年時点）		・ 交通安全対策の推進により市内交通事故発生件数が減少することは、安全で快適な移動環境を創出し、人にやさしいまちの形成に貢献できるため
	進捗管理指標 【メイン】	・ 主要生活道路以上の道路における歩道整備率	取組の柱④	33.2% （R 7 年度末）	33.9%	・ 歩道整備による歩行者の移動環境の確保は、人と車や自転車のすみわけにもつながり、交通事故発生抑制効果が期待できるため ・ なお、主要生活道路以上の道路のうち、計画幅員が 8 m 以上の道路を対象とする
	進捗管理指標 【サブ】	・ 歩道橋の改修件数	取組の柱⑤	1 件 （R 7 年度）		・ 老朽化した歩道橋の改修により、子どもたちが安全に安心して通学できる環境を整えることに寄与するため
		・ 放置自転車の件数	取組の柱⑥	91 台 （R 7 年度）		・ 放置自転車を減らすことは、生活道路の通行空間の確保につながり、交通事故発生件数の減少に寄与するため
❸ 自由な移動を支える	将来目標指標	・ 公共交通利用圏域における人口のカバー率の増加		96.7% （R 2 国勢調査）		・ 公共交通の利用環境の充実により目的に応じた多様な移動手段が確保できることは、多様な移動手段でつながる交通アクセスのよいまちの形成に貢献できるため
	進捗管理指標 【メイン】	・ 市内循環バス及びわくわくワゴン等のルート数	取組の柱⑦	6 ルート （R 7 年度末）	6 ルート	・ 市内循環バスやわくわくワゴン等のルート数の維持は、公共交通利用圏域における人口カバー率の増加につながるため
	進捗管理指標 【サブ】	・ シェアサイクルの年間貸出回数	取組の柱⑦	631,808 回 （R 7 年度）		・ シェアサイクルの年間貸出回数の増加は、シェアサイクルがより多く利用されていることを示し、自由な移動の実現につながるため
		・ まちなかベンチの設置数	取組の柱⑧	50 基 （R 7 年度末）		・ まちなかベンチの設置は、休憩や交流する場所として使われ、歩きたくなる道路空間の形成に寄与するため

【にぎわい・活力】

基本的な考え方	指標分類	指標		現況値	目標値（R12）	設定理由
❶にぎわいと活力のある駅前拠点をつくる	将来目標指標	・朝霞駅及び北朝霞・朝霞台駅周辺の歩行者通行量の増加 ※北朝霞・朝霞台駅においては乗り換え場所を避けて計測する		※今年度調査		・各駅周辺における活気あるまちづくりに向けた取組を進めることにより、各駅周辺の歩行者通行量を増加させることは、にぎわいと活力のある駅前拠点をつくることにつながるため
	進捗管理指標【メイン】	・都市機能誘導区域内の公共空間で実施した官民連携によるイベント開催箇所数	取組の柱① 取組の柱②	9箇所 （R 7 年度）	11 箇所	・都市機能誘導区域内での公共空間の活用は、駅周辺の滞在者数の増加につながり、にぎわいと活力を生み、新たな事業所が立地するポテンシャルが高まるため
	進捗管理指標【サブ】	・朝霞駅、北朝霞・朝霞台駅の年間乗降客数	取組の柱① 取組の柱②	朝霞駅：2,465 万人 （R 7 年度） 朝霞台駅：5,560 万人 （R 7 年度） 北朝霞駅：2,482 万人 （R 4 年度） ※北朝霞駅は乗車のみ		・駅周辺のにぎわいと活力の向上は、住民だけでなく、来訪のきっかけとなることから、その効果を駅の乗降客数の動向により把握するため
		・誰もが楽しく歩ける空間整備 （歩行者利便増進道路及び滞在快適性等向上区域）	取組の柱③	2 箇所 （R 7 年度末）		・誰もが楽しく歩ける空間整備が増加することは、住民だけでなく、来訪者の滞在や交流を促し、駅前拠点のにぎわいづくりにつながるため
❷安心して産業活動ができる環境を整える	将来目標指標	・産業用地（商業用地及び工業用地）の土地利用面積の増加		189.1 ha （R 3 年度都市計画基礎調査）		・産業用地の土地利用面積を増加させ、地域経済の活性化と持続的な発展を図ることにより、企業が安心して事業展開できる環境を整えることにつながるため
	進捗管理指標【メイン】	・産業系の土地利用を創出する地区計画や土地区画整理事業等の決定及び認可件数	取組の柱④ 取組の柱⑥	5 件 （R 7 年度末）	6 件	・地区計画や土地区画整理事業等による産業系用地の創出は、都市基盤の整備や産業立地を促し産業用地面積の増加につながるため
	進捗管理指標【サブ】	・企業との協定数	取組の柱⑤	153 件 （R 7 年度末）		・企業との協定件数の増加は、民間企業と連携した取組の強化につながるため
		・企業の誘致件数	取組の柱⑥	3 件 （R 7 年度末）		・企業の誘致件数の増加は、産業用地の土地利用面積の増加につながるため
❸地域資源を生かして活力を創出する	将来目標指標	・市民参加型のまちの魅力づくりに関するイベント・ワークショップ等の年間実施件数の増加		58 件 （R 7 年度）		・地域住民が主体的に参加し意見交換する場が多いほど、地域資源を活用した魅力的なまちづくりが進むことにつながるため
	進捗管理指標【メイン】	・市民参加型のまちの魅力づくりに関するイベントの件数	取組の柱⑧	48 件 （R 7 年度）	50 件	・市民を巻き込んだまちの魅力づくりの支援は、イベント等の実施件数の増加につながるため
	進捗管理指標【サブ】	・自然環境・歴史・文化資源を生かしたイベントの件数	取組の柱⑦	30 件 （R 7 年度）		・自然環境や歴史・文化資源、商店街、公園等の公共空間等の地域資源を活用した官民連携の取組の増加は、にぎわいづくりや地域経済の活性化につながることが期待できるため

【私らしい暮らし】

基本的な考え方	指標分類	指標		現況値	目標値（R12）	設定理由
❶市街地と自然をつなぐ、選択肢のある住環境を整える	将来目標指標	・ライフスタイルに応じた住環境に対する満足度の増加		※今年度調査		・自然と調和したゆとりある地域づくりやみどりに恵まれた地域づくりにより自然と調和した適正な土地利用に対する満足度が増加することは、自然と利便性が共存するコンパクトな住宅都市の形成に貢献できるため
	進捗管理指標【メイン】	・開発事業に伴う緑地確保の指導に対する整備率	取組の柱② 取組の柱③	100％ （R 7 年度末）	100％	・開発事業に伴う緑地確保の指導に対する整備率を維持することは、自然と調和した住環境の形成につながるため ・なお、開発事業に関する緑地確保は義務ではなく、努力規定であるところ、現在指導に対する整備率は 100％であり、引き続き 100％を維持することを目標とした
	進捗管理指標【サブ】	・歩きたくなる空間整備 （歩行者利便増進道路及び滞在快適性等向上区域）（再掲）	取組の柱①	2 箇所 （R 7 年度末）		・歩きたくなる空間を整備していくことは、ライフスタイルに応じた住環境を整備することにつながるため。
		・生産緑地の指定面積	取組の柱②	63.4 ha （R 7 年度末）		・市街地の中に残る農地の保全は、農地や緑地が残された静かで良好な住環境の維持・向上につながるため
❷暮らしを支える生活サービスの質を高める	将来目標指標	・生活サービス施設へのアクセシビリティ（利用しやすさ）に対する満足度の向上 ※生活サービス施設とは、商業、医療、福祉、子育て施設が該当		※今年度調査		・生活サービス施設の確保・充実により生活サービス施設へのアクセシビリティに対する満足度が増加することは、利便性の高い住宅都市の形成に貢献できるため
	進捗管理指標【メイン】	・生活サービス施設からの徒歩圏（500m圏）人口カバー率	取組の柱④ 取組の柱⑤	98.1％ （R 2 国勢調査）	98.6％	・都市機能の充実による生活サービス施設からの徒歩圏人口カバー率の増加は、生活に対する満足度に寄与するため ※都市計画部門だけでは取組を推進できないため、他部局と連携して推進する
	進捗管理指標【サブ】	・空き店舗等リフォーム資金の補助件数	取組の柱⑥	0 件 （R 7 年度）		・空き店舗等リフォーム資金の補助件数の増加は、既存ストックを活用した生活サービスの確保につながるため
❸私らしくいられる場や活躍できる場をつくる	将来目標指標	・市民幸福度の向上 （デジタル庁が示すウェルビーイング指標の 1 つ）		6.4 点／10 点満点 （R 7 ／デジタル庁）		・主観的指標（アンケート等）と客観的指標（オープンデータ等）により算出される市民幸福度が向上することは、私らしくいきいきと暮らせる、活躍できるまちの形成に貢献できるため
	進捗管理指標【メイン】	・商工関連イベントの実施件数	取組の柱⑦ 取組の柱⑧	4 件 （R 7 年度）	4 件	・官民連携による取組を継続していくことは、まちの魅力向上だけでなく、市民の愛着向上に寄与することが期待されるため ・商工関係イベントは、市民が主体となって実現しており、現在実施している 4 件のイベントも関係者の努力で継続されていることから、担い手の確保や機運醸成への市の支援が重要である
	進捗管理指標【サブ】	・インクルーシブに配慮した公園の数	取組の柱⑦	2 箇所 （R 7 年度末）		・インクルーシブに配慮した公園が増加することで、障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが分け隔てなく一緒に遊べる環境が広がり、市民一人ひとりが自分らしくいられる場の増加にもつながるため
		・社会環境の変化をリードする新たな産業の育成支援の件数	取組の柱⑨	4 件 （R 7 年度）		・新たな産業の育成を支援することで、多様な主体の共創による新たな価値の創出につながるため